

里親なら

家族雑感

「ありがとう、オカン」から始まって

奈良県高田こども家庭相談センター

所長 久保 博

里親会の皆さま、又、里親制度に関心をもって、この「里親なら」第5号をご覧の皆さまに、日頃のご苦労とご協力に対して御礼申し上げます。

昨年12月3日に「児童福祉法等の一部を改正する法律」が公布され、里親制度に関しても、養育里親研修の義務化や県業務としての相談、情報提

供等の支援の明確化等の見直しが行われました。今後さらに、県、こども家庭相談センターそして県里親会が連携・協力して里親制度を充実・強化していきたいと思っております。

さて、昨年、「里親制度にふれたテレビ番組、NHKの連続テレビ小説『瞳』、関西テレビの『ありがとう、オカン』



(幼稚園Tちゃん作)

そして毎日テレビの『フレッター』等が放送されました。特に『ありがとう、オカン』は、

奈良県出身の重松圭一プロデューサーが多くの里親、里子に会って取材され、大阪市西成を舞台に里親のオカンと、18歳の二人の里子を軸にした話で、大阪市中央児童相談所その他多くの皆さんの協力の下、完成されました。児童養護施設にいた子どもたちが里親と暮らしていく中で、ぶつかり合いながら家族の絆を育んでいくという内容に、私も大いに感動しました。重松さんは、『オカンは血の繋がっていない里親だけど、いずれ独立する里子には道筋をつけて人生を歩ませたいと必死になる。里子はオカンに「ありがとう」という言葉を最後まで言えないが、ずっと心の中では感謝の思いを抱いている。このドラマから「家族とは」を考えていただければと思います。』と語られています。

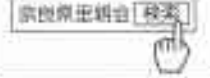
ます。私は、他の作品も含め、『家庭・家族はお互いに努力して創っていくもの』ということがその底流にあると思えました。私たちが福祉現場で多くの子ども達と接する中で、彼らが欲しているのは、表現の違いはあっても『家族全員が楽しく仲良く過ごす』ということでした。このような当たり前のことを子ども達が見望まざるを得ない現状を、親の世代である大人が真剣に反省しなければなりません。安らぎのある楽しい家庭は、家族が意識的に協力・努力し合わなければ、なかなか得ることはできません。私たち大人が、子どものためにも、自分のためにも、あらためて家庭・家族を見つめ直すことが必要でしょう。

「子育ては難しい。こんなはずではなかった。」と頭を抱える父親。「私の言うことなど全然聞かないし、何を考えているのか分からない。」と自信をなくした母親。「子どもが見えない時代」と言われて久しいですが、親は見ようとしなければ、とにかく親にとって難しい時代です。このような時、一番大切なことは、口で言うほど簡単ではないけれど、やはり親や大人が一步も二歩も下がって冷静に子どもに接することでしょう。子どもの心の琴線に触れ、心音(思い)を「聴く」努力をどれだけしているかでしょう。私たち相談機関も同じで、日々課題として『聴く』努力をしております。子どもの幸せとは何でしょう。それは、子どもを一人の人間として認めることから始まるのでしよう。



- (主な内容)
- ・家族雑感 (1)
 - ・奈良県里親会の活動 (2)
 - ・里親サロンの親子会 (3)
 - ・里親セミナー (4)
 - ・里親基礎研修 (4)
 - ・随想・玉置 (4)
 - ・里親フォーラム (5)
 - ・全国里親大会の報告 (5)
 - ・オレンジリボンキャンペーン講演会・研修会参加レポート (6)
 - ・子そだて広場 (7)
 - ・子育てのワンポイント (8)

第5号 2009年3月1日
 発行 奈良県里親会
 住所 奈良市紀寺町833
 奈良県中央こども家庭相談センター内
 TEL 0742-26-3788
 FAX 0742-26-5651



この会報は、奈良県共同募金会からの共同募金の配分金と奈良県地域保健福祉活動振興事業の助成金を受けて作成されています。

最後になりましたが、子育てで里親さんが疲弊し過ぎることなく、里親になろうとした時、始めた時の子どもへの思い「大変だけど、楽しいよ」という気持ちを維持していただけるように、私どもも共に頑張っていきたいと思えます。

『子育ては涙と笑いのヤジロベ』(和光堂「子育て川柳」より)ですね!!

奈良県里親会ホームページ

ホームページでは、研修会やイベント情報を紹介しています。是非見て下さい。
 アドレス
<http://narasatooya.jp>

奈良県里親会の活動

里親交流会—十月

当初は、9月20日の開催予定でしたが、台風のため、10月11日(土)10時半からの開催となりました。

参加人数が心配でしたが、会員27名・子ども16名・関係者5名・スタッフ6名の合計54名でした。

今回は、昼食に初めて、カレーライスを作りました。辛さの具合が薄くないかと心配しましたが、おいしく作ることができ、完食しました。



クラフト作製は、今回で4回目となり、腕が年々あがり、この様なりっぱな作品ができ上りました。キャンプファイアーには、火の側に寄ってきても楽しく私たちと話してくれました。



参加者の声

私たち夫婦は初参加となるので、とても心配な気持ちで当日を迎えました。さんさいの里に到着して、自己紹介を済ませると、そこには、次々とスケジュールが組んであり、時間など忘れる位、楽しい一日でした。

それぞれに持ち場に別れ、子どもたちもお手伝いをしていて、どの子どもが子のように大人も接している空気が、私もとでも幸せでした。最初は、はずかしそうにしていた子どもも、クラフトの時には、火の側に寄ってきても楽しく私たちと話してくれました。



主人は、鈍(なた)で、薪を割っていた時が、一番活躍していたので、自然に話もできたのだと思います。私も二人の子どもを育てている方や二人目を希望されている方と気軽に話が出来る、うれしく思いました。

愛情のこもったカレーと、キャンプファイアーを囲んでのゲームに自然と笑いと和やかな雰囲気になり、すっかりとけこんでいる私たちがいました。これからも、この交流会で互いの家族の成長を喜び合える一員になりたいと強く思いました。何日も前から、色々と準備をしてくださった担

当の方々、そして、さんさいの里の楽しく明るいスタッフの皆さん、お世話になりました。ありがとうございました。(D里親)



平成 21 年度 おしゃべり広場日程案内

4月	5月	6月	7月
9日	14日	11日	9日
8月	9月	10月	11月
6日 <small>第1木曜日</small>	10日	8日	12日
12月	1月	2月	3月
10日	14日	18日 <small>第1木曜日</small>	11日
場所 支援センターてんり			
時間 10:00~12:00 毎月第2木曜日			

平成 21 年度 近畿地区里親研修会

～ 知ってもらおう里親制度、広げよう里親制度 (仮) ～

- 日時：平成21年6月27日(土) am10:00~pm16:00
- 場所：奈良県社会福祉総合センター 大ホール (橿原市大久保町 近鉄「畷傍御陵前駅」すぐ)

第3回 里親サロン “冬の親子会”

平成20年12月20日

タイムスケジュール

- ・ 13:45～ ジャグリングショー
- ・ 14:15～ ハンドベル演奏他
- ・ 15:00～ 交流会



今回は、昨年度に引き続きジャグラー希さんと、新たに奈良佐保短期大学(奈良市鹿野園町)で保育士等を目指して勉強している学生を中心とした『きらきら音楽隊』の皆さん(学生11名、教員2名)に来ていただきました。

参加者は、子ども18名、大人15名、関係者7名の計54名で、里親家庭が交流し、子どもだけではなく大人も楽しい一日となりました。



★ 『冬の親子会』、本当に親も子も共に楽しく過ごさせていただきました。まさかフォークダンスまでするとは・・・と驚いています。

また、ジャグリングショーを目の前で見られて感動しました。思っていたより、子どもは真剣な顔で見えていたようでした。ただ、時々「なげたらあかんやんか～」とか、「あぶないな～」とか・・・フィニッシュが決まらないでいる時に「あんなにがんばったのに～」なんて突っ込みを入れている我が子を見ているのもおもしろかったです。(ジャグラーの方には申し訳ないですけど。)日頃、親が子どもに言っていることが、そのままこんなところで出てくるのかとおもしろかったです。(M里親)

★ ジャグラー希さんのパフォーマンスを拝見するのは二度目ですが、前回以上に楽しんでいました。親の私も大満足。また、大学生のお兄さん、お姉さんの歌やゲームと一緒に歌ったり、体を動かしたりと横で見ている、とても楽しそうでした。毎年、楽しい企画をして下さり感謝しております。(K里親)

学生さんの感想

きらきら音楽隊

★ ハンドベルやフォークダンスなどを通じて、子どもさんや保護者の方と一緒に楽しい時間を過ごすことができ、私自身とても良い経験ができました。ハンドベル演奏時も静かに聞いていただきまたゲームや歌にも積極的に参加してもらえて嬉しかったです。(学生)

★ 今回、奈良県里親会の交流会に参加させていただき、本当に楽しかったです。ジャグリングのお兄さんのパフォーマンスは、とても楽しく盛り上がっていました。きらきら音楽隊は、みなさんが積極的に参加していただいたおかげで、楽しくハンドベルやゲームや歌をうたったりすることができました。このようなすばらしい場にお招きいただき、本当にありがとうございました。とても楽しかったです。

来年もまた声を掛けて下さい。(学生)

Merry Christmas

クリスマスプレゼント

12月中旬に、里親委託中の子ども23人に里親会から、図書カードをクリスマスプレゼントとして各里親宅に配布しました。小さいお子さんは、里親さんと一緒に本屋さんに行こうと結ばれていました。大きなお子さんは、好きな本を買いに行こうと、喜んでくれました。



第1回 里親セミナー

平成20年11月16日(日)
やまと郡山城ホール

基調講演講師の紹介

萬屋育子先生

愛知県 刈谷(かりや) 児童相談センター所長。

新生児委託の中心的存在。愛知県では、『実の親が育てられない場合は、赤ちゃんのうちに大切に育ててくれる家庭・家族に巡り会えば、子どもは健やかに育つ。』という考えのもとで、里親委託を推進されています。

この講演で、特に印象的だったのは、出生前や出産前後からの相談により、できるだけ新生児のうち里親と特別養子縁組ができるようにするという「新生児委託」を積極的にやっているということとです。新生児のうち預かることで里親が名付け親になることができ、虐待死の予防にもなっているということとです。ある程度大きくなった子どもを預かると、家庭

環境が大きく変わるため、里親も里子もかなり苦労しますから、新生児委託というのもいい手段だと思いました。

また、体験発表して下さった和歌山県童楽寺の安武住職さんは、まだ実子も小さい中、山村留学の子どもと共に里親としても里子を預かり、地域の人々をボランティアとして巻き込んで現代版寺子屋的な活動を押し進めているというバイタリティーに、私ももつと頑張ろうと思いました。(里親D)

里親基礎研修

平成20年12月6日(土)
いかるが園

『子どもの上手なほめ方』

4人から5人のグループに分かれてロールプレイ形式で、順番に子ども役、親役、観察者役となり、お片付けをしたときのほめ方など幾つかのテーマにそって具体的にほめてみました。これまで家庭で子ども

を「ほめる」際、「上手にほめる」ということをあまり意識して考えたことはありませんでした。

ほめるしくさ

- 頭をなでる
- 拍手する
- たきしめる
- 笑顔
- 高い高いする
- ひざにのせる

「ほめる」ということ

は、子育てをしていると、日に一回や二回は必ず出合う場面です。指示したり注意するだけではなく、どうほめたら次のステップにつながるか・・・ということだと思えます。あらためて考えると難しいですが、実際にやってみると不思議に面白く、子どもの行動にステップアップが見えるとほめる側も嬉しくなってきました。

次へのステップにつながる。問題行動が減る。ほめることが増える。次のステップへ、というように好循環となります。私自身、あらためて子育て

の難しさと楽しさを同時に学んだ一日でした。余談ですが、今回は、夫婦で参加された方もあり、『上手なほめ方』を夫婦の間でも実行すれば、コミュニケーションが円滑になり夫婦円満にもつながりますねえ・・・とグループみんな、笑顔になりました。(里親A)

ほめごと

- かしい
- おりこうね
- えらいね
- すこいね
- すてき
- ありがとう
- お母さんうれしい
- よしよし
- Xちゃんがいちばん
- 本当によくできたね
- おみこ
- やったね
- 決まってるね
- 感動した

(研修会レジュメより)



いかるが園の庄にある母子棟

随想

玉章 たまざさ

子は親の視線を見て習う

多数の人の出入りする、スポーツ施設で働いています。しょっちゅうお会いする方は別にして、時々来訪される方や、初めて見える方に対して、同じように挨拶したり、対応するようにしています。そういう中で、子連れのお母さんもいます。

子どもは専用の子ども室があって、そこで遊べますが、概ね5才以上位の子では、親の使用している部屋の前や廊下にて、一人、又は数人で

遊んだりして、時間を過ごします。そんな子どもでも、やがて退屈になり、作業をしている私に気軽に近づいて、話し掛けて来る子がいます。ところが、私に興味を示さず、話し掛けて来ない子もいます。当然、性格によるものかと思っていまして、後でお母さんが来られて、その理由が解ったのです。

話し掛けて来る子のお母さんと私は、最初に出会った時、きちんと挨拶を交わっているのです。話し掛けて来ない子のお母さんとは、そもそも入館時、出会っていないか、もしくは、挨拶を交わしていないか、親子連れで、館に来られた時に、子どもは、お母さんのコミュニケーションをしっかりと見ていたのです。

このようなシチュエーションは、「子は親の背中を見て育つ」と、い

うことになりました。現実的に見れば、「子は親の視線を見て習う」と、言った方が正解ではなからうか、と思います。

皆さん！子どもは見えていないようにも、見ているのです。

以前、里子をお預かりした時に、ある親御さんと私が親しくさせて貰っていると、その方のお子さんと、我が里子が親しくなることが多かった、ということ思い出しました。これなどは、付き合いの関係で、そうなるのは自然なかも知れませんが、ひよっとして、短期の養育里子であっても、親同士の付き合いをキッチリ見ているからかも知れませぬ。

よもやまな話になってしまいましたが、最後に付け加えておきますと、子連れのお父さんもいます。しかも最近増えて来ました。(葛西 記)

里親フォーラム

平成20年10月4日(土)

静岡県 浜松市

全国里親大会の前日、初の試みで里親フォーラムが開催されました。『里親家庭に育つて』をテーマにパネルディスカッション形式で、元里子達の貴重なお話を聞くことが出来ました。

コーディネーターには、ぶどうの木著者で、東京都で里親ファミリーホームに認定されている坂本洋子氏が。パネラーには、さくらネットワーク(全国里子会)を代表して、東京都在住の28歳の女性。東京都在住の大学4年生の男性。保育士で、将来、夫と一緒に里親ファミリーホームをしたいと考えている女性。愛知県在住の大学1年生の男性の計4人です。心に残ったお話をいくつか紹介します。『今は亡き実母が、病氣療養中のベッドで編んでくれたセーターを今も大切にしている。』

『乳児院から里親委託に会ったことのない実親に会いたい気持ちはある。』

『出産直後、乳児院に。その後、2歳頃に里親委託となり20歳で里親と養子縁組した。実の親には会ったことがなく、会いたいとも思っていない。』

『2歳半頃に乳児院から大阪府の里親。その後、愛知県の里親に委託。実の親には会ったことがないが、大阪と愛知に二つの実家がある。』
『今のお父さん(元里父)、お母さん(元里母)がいなかったら、自分がどうなっていたかわからない。』



『実の親以上にすてきなお母さんや家族に巡り会えて良かった。』

『実親も里親も一緒だと思っっている。里親を自分の親だと思っっている。』

『早く里親宅に行く方が幸いで、遅いと幸せになれないということはない。今の両親(里親)と巡り会えた時が一番いい時期であつたと思っっている。』



(里親X)

全国里親大会報告

平成20年10月5日(日)

静岡県 浜松市

テーマ「よりよい社会的養護を考える 私たちが里親に出来ることは」

参加者 約五百人
○厚生労働省行政説明

社会的養護の今後のあり方として家庭的養護を拡充。その中で里親制度の拡充に取組むとの方針が述べられました。



○全国里親会の 国への要望書

- ①ファミリーホームの充実、②里子の措置延長等についての特別措置、③専門里親制度の活用推進、④親族里親制度の発展、⑤愛着障害等に関する治療法の開発研究、⑥里親委託費及び里親手当の充実の六項目を厚生労働省へ提出。

○基調講演

『ひとりぼっちの私が市長になった』

草間吉夫高萩市長 邂逅、師との出会いの大切さ。乳児院、児童養護施設で育った体験を通して、喜びあり、

悩みもありました。迷っている時、「頑張ろう」と将来への希望と勇気、そして指針を与えてくれたのは、良き師との出会いでした。

○パネルディスカッション 『地域で子どもを育てよう』

コーディネーター・福永 博文(浜松学院大学教授)、パネラー 坂本 洋子(東京都の里親、ぶどうの木の著

者)、加賀美 尤翔(山梨立正光生園(乳児院、児童養護施設、母子自立支援施設、保育所)理事長)、草間吉夫(茨城県高萩市長)

明日にでも出来ることとして、施設と里親とが研修会等、交流の場を設けることがいいのでは。施設と里親との連携が必要、大切であるとの意見がでました。(里親H)

里親会活動にご協力を 賛助会員を募集しています

○年会費 ひと口(1,000円)

お一人、何口でも歓迎です! よろしくお願ひします。

親の病氣や様々な事情から、家庭で生活できない子どもたちを自分の家庭で預かって育てるのが、私たち里親です。

奈良県里親会は、奈良県で登録している里親で構成されています。

里子・里親の交流や養育研修、広報誌の発行などを行っています。

運営は、会員からの会費と共同募金会等の補助金によってまかなわれていますが、資金的に大変厳しい状況にあります。

そこで、多くの方々の賛同を得て、会の活動の活性化を図ることができればと考え、賛助会員を募ることにになりました。

里親会の目的に賛同し、応援して下さる方を「賛助会員」として、広く募集しています。是非ご協力をお願いします。



(お問い合わせ先)

〒630-8306 奈良市紀寺町833奈良県中央子ども家庭相談センター内奈良県里親会事務局
TEL 0742-26-3788

里親におすすめ 講演会研修会参加レポート

2008 オレンジリボン キャンペーン

講習会・シンポジウム

平成20年11月30日
橿原文化会館

主催者である奈良県(県子ども家庭局長高木三起子氏)と奈良県児童虐待防止ネットワーク「きずな」(同代表藤掛永良氏)の挨拶に続いて、タレントで京都外国語大学・大学院の教授のジェフ・パーランドさんが、『OH! 家族、地域、人・間』というテーマで講演されました。かつては日本文化の代名詞であった下町などに見られた『地域ぐるみの子育て』が『地域での連帯感』を育み、子どもの虐待防止に大きな効果がある等の趣旨の話をつづりのユーモアを交えて話されました。

その後、『子ども達の笑顔のために』子育ての応援く』をテーマにシンポジウムが開かれました。

その後、『子ども達の笑顔のために』子育ての応援く』をテーマにシンポジウムが開かれました。



コーディネーターに
大阪市立大学の山縣文



治教授。パネリストにはジェフ・パーランド氏、三木幸氏(子育てサポータークラブ代表)、松舟憲光氏(里親)、藤村美香氏(田原本町保健師)。それぞれが子育てを応援する立場からお話しされ、会場と一体になった活発な議論が展開されました。

最後に『きずな』同事務局長河村喜太郎氏の挨拶で閉会となりました。

「オレンジリボン キャンペーンについて」

2004年9月、栃木県小山市で二人の幼い兄弟が虐待の末、橋の上から川に投げ入れられ亡くなった事件をきっかけとし、2005年に子どもの虐待防止を目的した小山市の「カンガルーOYAMA」が、オレンジリボンキャンペーンを始めました。二度とこのような悲劇が起こらないようにという願いから、NPO法人「里親子支援のアン基金プロジェクト」がその活動に協力し、2006年から

らは『児童虐待防止全国ネットワーク』が総合窓口を担い、厚生労働省と協働により全国的に活動を広げています。

奈良県では、2008年度から、すべての人が児童虐待についての理解を深め、身近な子育て支援をすることで虐待から子どもを守る意識を持ち、相談や通告がしやすい環境づくりを目指して「オレンジリボンキャンペーン」を実施しています。「児童虐待防止推進月間」の11月には、県内主要駅やショッピングモールで街頭キャンペーンを行うとともに、

虐待防止啓発のラッピング広告バスを、平成20年11月から平成21年10月まで奈良市内を中心に運行しています。

※参考 奈良県ホームページ

奈良県ホーム>県庁の組織>福祉部子ども家庭局子ども家庭課>オレンジリボンキャンペーン>講演会・シンポジウム
<http://www.pref.nara.jp/kodomo/kenzen/orange/20081130.html>に掲載。

具体的な 子どもの遊び

平成20年9月19日(金)
橿原万葉ホール

とても和やかな雰囲気の中で受講することが出来ました。

子どもと接しておられる講師の千代田短期大学の竹内進准教授の豊富な経験をもとにしたお話は、とても面白く理解することができました。

奈良県児童福祉施設連盟主催の研修を、私達二人の里親も受講させて頂きました。他の受講者はみんな乳児院や児童養護施設の職員さんです。みなさん初対面から笑顔で接して下さい、

午前中は、新聞紙、紙コップや輪ゴムなど、家の中にある物を使ってオモチャを作りました。遊ぶ楽しさと作る楽しさでとてもワクワクしました。

翌朝、筋肉痛になってしまいました。是非、次回も一緒に参加したいと思います。(里親I)

心に残る言葉

「前を向けば今日が一番若い。

後ろを向けば今日が一番歳をとっている。」

ある人が言っておられるのを聞いた言葉です。(N・I)

子どもだて広場

「思春期を迎えた里子について」

和歌山県里親会会員 安武 隆信

自己紹介

私は和歌山県の高野山の麓、過疎の村、かつらぎ町のこどもの寺『童楽寺（どうがくじ）』の住職をしている安武隆信と申します。

平成18年12月に和歌山県知事から養育里親の認定をいただき、里親歴2年足らずの32歳の若輩者です。

里親のきっかけ

昨今、少子化、核家族化、児童虐待の増加など、子ども達を取り巻く社会環境、教育環境は深刻化していると思います。

そんな中、第一子の子どもを授かった2年前、少子化や過疎化による小学校の統廃合問題等を身近に感じるようになりました。子どもへの教育もお寺やお坊さんとして大

切な役割であると強く感じ、出産後間もない妻と有志を募り、こどもの寺を作ることを一念発起しました。

当初は、両親の心配する声が強く、外野席からも反対や不安視する声もあり前途多難のスタートでしたが、子どもが大好きな者や多くの方の支援に恵まれ、励まされたのが大きな支えとなり、活動力となりました。さらに里親として認定・登録

することができ、計画から1年半。多くの皆様の支援のもとザ・現代版寺子屋、その名も『童楽寺』を開くことができました。

どんな子ども達

先日までNHKの朝の連続ドラマで放映されていた『瞳』をご存知ですか？毎朝、子ども達が登

校した後、妻と二人でテレビの前で『瞳』をかぶりつきながら楽しく見ていました。というのも私も夫婦も、0歳と2歳の自分の二人の子どものほか、さまざまな事情で家庭、親元を離れた子ども達と一緒に生活しているからです。

思春期を迎える子ども達との生活

寺子屋と言っても、特別なことをしているわけではありません。家族全員が、人に対して『ありがとう』の感謝の気持ち

を言葉で伝え、また申し訳ないことをした時には『ごめんなさい』と素直に言える等の社会ルールを身に付けられるよう、ごく当たり前の生活をおくっています。そして、空気や水が澄み緑あふれる自然豊かな環境を生かして子どもが楽しめるようなイベントを企画、開催し、地域の子どもの会の子ども達にも参加してもらい、町役場と連携した「子育てサークル」も開催しています。モットーと

現状の課題

子どもがこれまで生活していた家庭環境や経験から課題も多いのが実情です。基本的な生活習慣や机に向かつて勉強するという姿勢が全く身に付いていない子どもや、勉強時間になるとソワソワしたり、泣き出したりする子どもがいます。そのような子ども達の成長を支援するためには、家庭で、学校で、或いは連携してどのように接してい

ければいいのか、日々、勉強です。里親として、子どものこれまでの家庭環境や生活歴などを十分に認識したうえで、子どもと接していく重要性を再確認しました。

子ども達の変化

私たち夫婦だけでなく、学校での特別支援教育、町社会福祉協議会様のご協力、勉強ボランティア

の皆様の活躍で、基本的な生活習慣の習得と学力の向上に努めています。全く落ち着きのなかった子ども達も、日に日に落ち着き、食事中や朝のお祈りの際にはしっかりと正座することができるようになりました。また、これも徐々ではありますが、何も言わなくても、食事の配膳や洗濯物たたみなど、自主的にお手伝いをしてくれるようにもなりました。

私ども夫婦は、若年ながら、みんなに支えられ、里子を含め、現在、家族9人一緒に生活しています。子どもが今までおかれていた厳しい環境や、長期間に渡る不登校などは、いい意味でリセットしてもらったことに成功しました。今では信じられないほどの笑顔で、たくさんの方にも恵まれ、クラブ活動も熱心に取り組みまでに成長しました。これも近所の友達、学校の先生方やボランティアさんのあたたかいご支援

里親活動のまとめ

とご協力の賜物であると日々、感謝しています。一里親とは何なのか？どんな活動をしているのか？どんな子ども達が、どんなことで悩んでいるのか？」を引き続き伝えるとともに、里子との感動の場面を伝えることで、一人でも多くの方が里親に対する感心、興味を持っていただけることを願っています。

私たちが夫婦の考え方に賛同いただいた方々に、日々、感謝し、子ども達の未来のために、今後もしも里親活動を通じて子ども達の生活を少しでも安定させることができればと考えています。

(11月16日 第一回 里親セミナーで体験発表していただいた内容です。)





子育てのワンポイント ちよっちよっち (5)

◆アレルギー性疾患が急増中！

喘息、アトピー性皮膚炎及び花粉症などのいわゆるアレルギー性疾患を持っている人は、およそ国民の3人に1人いるといわれています。また、平成12～14年度にかけて実施された全国調査によると、

- 4ヵ月児……………12.8%
- 1歳半児……………9.8%
- 3歳児……………13.2%
- 小学1年生……………11.8%
- 小学6年生……………10.6%
- 大学生……………8.2%

にアトピー性皮膚炎が認められました。



こどものアレルギー ～アトピー性皮膚炎～

◆アトピー性皮膚炎とは？

乳幼児期に始まることが多く、(1)かゆみがあり(2)慢性に繰り返す(3)特徴的な湿疹を主な症状とする疾患で、患者の多くはアトピー素因を持っているといわれています。生後2～3ヵ月頃までは乳児湿疹と区別がつきにくいですが、生後3～4ヵ月を過ぎててもかゆみを伴う湿疹を繰り返したり、湿疹がじくじくして悪化したり、全身が粉をふいたようにカサカサ、ザラザラしてきたりします。中でも特徴的なのは、いわゆる「耳切れ」と呼ばれているもので、耳のつけ根が切れて赤くカサカサしてきます。

(※アトピー素因：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎等の病歴または家族歴を持つものをいいます。)

◆治療のポイント

(1) スキンケア

①皮膚の清潔：毎日の入浴、シャワー

- ・汗や汚れは速やかに洗い流す。刺激の少ない石けんを用いて、よく泡立てて、やさしく手のひらや柔らかいタオルで洗う。
- ・汚れは下に流れていくので、頭から順に下に向かって洗う。
- ・耳のうしろ、わきの下、関節の内側、指の間、首のまわりなど、洗い残し、すすぎ残しに注意。
- ・入浴後にほてりを感じさせる沐浴剤・入浴剤は避ける。

②皮膚の保湿：保湿剤

- ・入浴、シャワー後は、体を軽く拭き、まだ湿り気のあるうちに保湿剤をぬる。

③その他

- ・室内を清潔にし、適温適湿を保つ。
- ・洗濯：下着にはぬり薬などがついていたり、シーツや枕カバーにも寝ている間に細菌がついているので、こまめに取り替える。柔軟剤はなるべく使わない方がよい。

アレルギー反応を起こす主なもの(抗原)



(2) 薬物療法

ステロイドの副作用が怖くてぬれない、という話をよく聞きますが、皮膚から吸収されるステロイドについては、それほど心配はいりません。症状の程度や年齢に応じた治療が必要で、かかりつけ医の指示のもとに治療を継続することが大切です。ステロイドをぬると炎症が引き、見た目がきれいになりますが、一時的なものでまだ治ってない場合が多くあるため、自己判断で治療を中止するのは危険です。

(3) 湿疹を悪化させる原因・要因の検索、対策

多くの場合、牛乳、卵などの食物、ハウスダスト、ダニ、カビなどの環境がアレルギー反応を引き起こします。ただしアレルギーのもとになる物質は、人それぞれで、はっきり分かる人もいれば、どの物質に反応しているのかがあまりはっきりしない場合もあり、また、「抗原」以外にも症状を悪化させる要因はいろいろあります。検査の結果と日常的な観察の両方が大切です。

肌に直接触れるものをよく観察して
自分に合うものを選びましょう



<厚生労働科学研究「セルフケアナビ アトピー性皮膚炎」より抜粋>

アトピー性皮膚炎は、長期間治療を要するため、かかりつけ医との信頼関係が大切です。日常の変化を正確に医師に伝え、こどもに合った治療を続けていくことが必要です。自己判断で治療を中断することなく、上手にコントロールしていきましょう！！

(奈良県中央子ども家庭相談センター 保健師 大井 久美子)

春は、別れと出会いの季節です。卒業式や入学式、退職や転勤など…。今年度も何人かの里子さんと里親さんが出会われたことでしょうか。新しい生活にとまどいながら、振り返れば、思い出さき日々、ささやかな幸せを感じられたことと思います。

我が家の息子も知らぬ間に背丈が伸び、私より大きくなって、年月を感じる今日この頃です。

これからも、「里親なら」をご愛読くださいますようお願いいたします。(M.J記)

編集後記

- ◆ 総会 4月11日(土) 13時～13時45分 児童家庭支援センターでんり
- ◆ 第1回里親研修 総会終了後
- 講師：上田庄一教授 (東大阪大学短期大学部 幼児教育学科長)
- 『子育てと子どもの人権』
- ◆ 情報交換会(おしゃべり広場) 毎月第2木曜日(予定) 10時～12時(予定)児童家庭支援センターでんり
- ◆ 近畿地区里親研修 6月27日(土) 10時～16時(予定) 県社会福祉総合センター (近畿圏傍御陵前駅すぐ)



おしらせ